

障害者の一般就労を支える人材育成のあり方に関する研究会(第2回)

平成20年7月28日(月)

資料4

独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構における 障害者の就労支援を担う人材育成の取組



独立行政法人

高齢・障害者雇用支援機構

Japan Organization for Employment of the Elderly and Persons with Disabilities (JEED)

機構が実施する障害者の就労支援を担う人材育成のコンセプト

「福祉から雇用へ」の流れの中で、福祉機関等における人材育成を推進

総合センター研究部門における研究・技法開発成果と地域センターで蓄積した実践的なノウハウの活用

実施方法

総合センターにおいて理論・技法の修得、地域センターにおいて実践的なノウハウの修得を目指した研修を一体的に実施（職場適応援助者養成研修）

実施内容

障害者に対する支援ノウハウだけでなく、事業主に対する支援ノウハウや各種制度の情報を総合的に提供

内容の見直し

受講直後アンケート、追跡アンケート及び所属長アンケートによる研修ニーズの把握と研修内容等の継続的な見直し



独立行政法人

高齢・障害者雇用支援機構

Japan Organization for Employment of the Elderly and Persons with Disabilities (JEED)

障害者の就労支援を担う人材育成のための取組状況(H19)①

総合センター―実施研修

職リハ実践セミナー

- 福祉、医療等の分野の職員に対し、職リハの基礎知識と実践的ノウハウを付与
- 障害別(知的障害・精神障害・高次脳機能障害)コースを設定
- 土日を含めた4日間で開催

障害者就業・生活支援センター等職員研修

- 就業・生活支援センター等の職員に対し、職務レベルに応じた研修を実施
- ①新任担当者研修
- ②スタッフリーダー研修
- ③新任施設長研修

発達障害者支援センター就労支援担当者等研修

- 発達障害者支援センター、福祉施設等で発達障害者の支援を行う職員に対し、職リハ実務に関する研修を実施

ジョブコーチ養成研修

- 福祉施設等、企業の新任ジョブコーチに対し、総合センターでの集合研修実施後に、地域の現場において演習等の実践的な研修を実施

- 地域センターにおいては、小グループ又は個別による演習、ケーススタディ、見学等の形式で実施。

地域センター―実施研修

連携を通じた職リハに関する基礎知識、共通理解の形成

地域職リハ推進フォーラム

- 関係機関職員に企業担当者も加えて、職リハに関する共通認識を形成

地域就業支援基礎講座

- 関係機関職員に対し、職リハの基礎知識を付与

フォローアップ

ジョブコーチへのフォローアップ

- 配置型ジョブコーチと第1号ジョブコーチとのペア支援を通じて、地域センターからの更なる支援技術等の移転
- ジョブコーチ推進協議会等の機会を活用したケーススタディや新しい知識、技能等付与



独立行政法人

高齢・障害者雇用支援機構

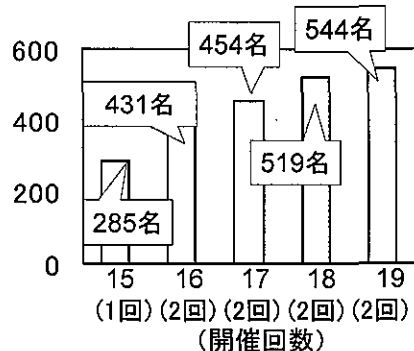
Japan Organization for Employment of the Elderly and Persons with Disabilities (JEED)

地域センターによる人材育成のための取組

障害者の就労支援を担う人材育成のための取組状況(H19)②

職リハ実践セミナー

●修了者数の推移



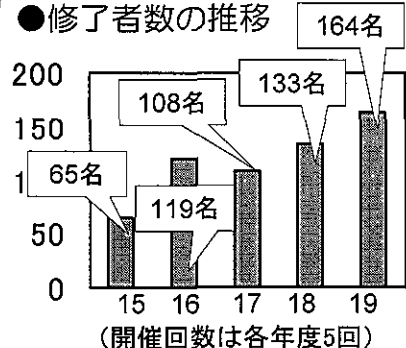
アンケート結果

直後(満足度)⇒**98.7%**
 追跡(有用度)⇒**86.6%**
 所属長(有用度)⇒**96.9%**

「学校での現場実習や保護者との連絡相談会等で活用している」「企業の考え方の背景、福祉業界の人間の考え方との差について学べたことが役立っている」(追跡)

障害者就業・生活支援センター職員等研修

●修了者数の推移



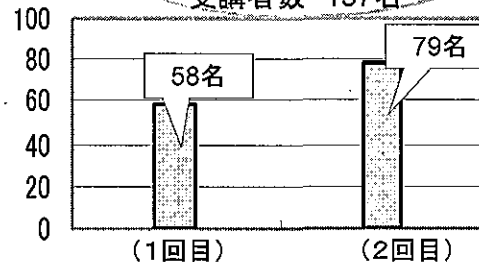
アンケート結果

直後(満足度)⇒**98.0%**
 追跡(有用度)⇒**92.6%**
 所属長(有用度)⇒**96.0%**

「就業生活支援センターとハローワーク、職業センターとの連携が理解できた」(直後)「以前からの取組みにエビデンスが加わった部分があり、職員の自信向上につながった」(所属長)

発達障害者支援センター就労支援担当者等研修

新規実施
 年2回開催
 受講者数 137名



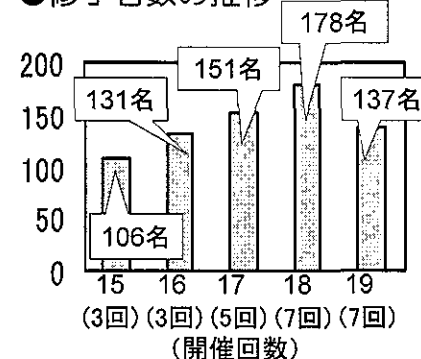
アンケート結果

直後(満足度)⇒**95.7%**
 追跡(有用度)⇒**82.8%**
 所属長(有用度)⇒**93.8%**

「就労支援のネットワークの大切さと留意点が理解できた」(直後)「特別支援学校の教師として学校ではどのように指導していけばよいのかのヒントを得た」(追跡)

ジョブコーチ養成研修

●修了者数の推移



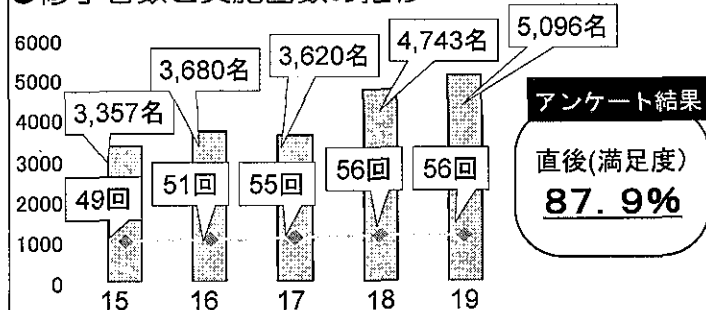
アンケート結果

直後(満足度)⇒**100%**
 追跡(有用度)⇒**92.6%**
 所属長(有用度)⇒**100%**

「支援への自信・モチベーション・ネットワークといった点で効果があったように感じます」「研修内容が新鮮だったので、スタッフの動機付けに役立ちました」(所属長)

地域職リハ推進フォーラム

●修了者数と実施回数の推移

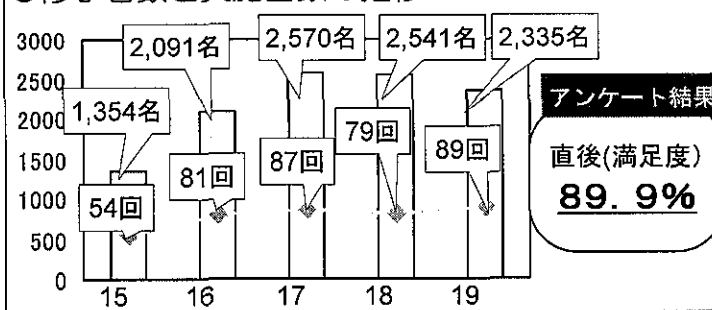


アンケート結果

直後(満足度)
87.9%

地域就業支援基礎講座

●修了者数と実施回数の推移



アンケート結果

直後(満足度)
89.9%

職リハ実践
 セミナー
 グループ演習



最近の研修に関する特徴的傾向

□研修希望者の増加

□研修ニーズの多様化

◆受講者の所属機関の多様化

- 福祉機関の割合が最も多く、就労移行支援事業者が増加傾向。
次いで、医療・保健機関が多い。

*総合センター実施研修では、福祉機関は全体の6~7割。うち約半数が就労移行支援事業者。
医療・保健機関は約2割（平成19年度）。

*地域センター実施の地域職リハ推進フォーラム、地域就業支援基礎講座では、福祉機関の割合が平成19年度はそれぞれ32.7%（前年度17.3%）、50.1%（前年度40.0%）と増加。

- 教育機関、企業が増加傾向。
- ニート支援機関等の新たな受講者層も増えつつある。

◆受講者の就業支援経験の多様化

- 受講後アンケートでも「就業支援のイメージを持てた」、「就業支援の基本姿勢を学べた」から「中級者用のセミナーの開催をお願い」までさまざまな意見。

□実践的なスキル付与に対する要望

- 総合センター実施研修では、より実践に活かせるカリキュラムの要望がみられる。
- また、就業支援の取組み状況や労働市場等の地域差などから、現場の実情に即した研修機会の要望がみられる。



独立行政法人

高齢・障害者雇用支援機構

Japan Organization for Employment of the Elderly and Persons with Disabilities (JEEED)

アンケート調査における受講者及び所属長からの研修への要望

H19職業リハビリテーション実践セミナーに関するアンケートより

- 実務経験の有無により講義の内容をさらに分けた方がよいのでは。
- より具体的な就労支援のカリキュラムを実施していく上で必要なスキル取得のための内容を希望します。
- 中級者用のセミナーの開催をお願いします。
- 求人と求職のバランス等地域差が大きいので地域(県単位)ごとの分科会があると良いと思います。

H19障害者就業・生活支援センター等職員研修に関するアンケートより

- 定期的なスキルアップ研修があれば良いと思う。
- 他の障害者就業・生活支援センターが行っている取組などの情報が知りたい。
- スキルの向上をはかるために、地域センターが実施されるセミナー等に今以上に積極的に参加していきたい。

H19発達障害者就労支援センター就労支援等研修に関するアンケートより

- 初級、上級などの参加者の習熟度に応じたコースを設けてほしい。
- 他の職員にも受講させたい。是非地域でも同様の研修を開催してほしい。

H19ジョブコーチ養成研修に関するアンケートより

- 半年後、一年後、など一定期間実践した後に参加できる全国規模の研修があるといい。
- スキルアップ研修をしてほしい。
- 地方での先進的な取組を示唆してもらえるような研修も参考になる。



独立行政法人

高齢・障害者雇用支援機構

Japan Organization for Employment of the Elderly and Persons with Disabilities (JEED)

今後の人材育成の在り方について

基本的考え方

□各就労支援機関における人材育成の取組みと外部の研修機関による多様な研修機会の提供及び助言・援助の実施

- 就労支援機関においては、それぞれの特性、必要性等に応じた人材の育成が必要。
- こうした人材の育成に当たっては、就労支援機関の規模、内容等に応じて、大きく次の方法が考えられる。
 - ①自ら人材育成のための体制を整備し、必要な能力の開発、向上については、外部の研修機関を活用する。
 - ②外部の研修機関での研修をベースに、OJTにより、必要な技能等を付加する。
- このため、外部の研修機関が就労支援機関に対し、
 - ①さまざまなニーズに応える研修機会を提供すること
 - ②連携等を通じて、随時、人材育成に資する助言、援助が得られる機会を提供することが必要ではないか。

当面の研修の在り方

□多様なニーズに対応した研修機会の提供

◆基礎的な知識、支援スキルを付与する研修機会の拡大

- 就労支援に新たに取り組む機関が多く、今後とも就労支援機関の増加が見込まれ、担当者の異動等も多いことから、基礎的な研修に対するニーズは、当面増大すると予想される。

◆就業経験等に応じたスキルアップの機会の拡大

- 一定の経験等がある者からは、スキルアップを図る機会についてのニーズが増大すると予想される。

□実践的な研修機会の充実

- 就労支援を新たに取り組む者に対しては、基礎的な知識を修得した上で、併せて、実践的なスキルを修得するための機会を拡大することが必要。

参 考 資 料

- 参考資料1-1 平成19年度人材育成の概要
- 参考資料1-2 障害者の就労支援を担う人材育成のための研修
—所属機関別状況(平成19年度)—

- 参考資料2-1 平成20年度人材育成の概要
- 参考資料2-2 障害者の就労支援を担う人材育成のための
研修カリキュラム(平成20年度)

平成19年度 人材育成の概要

名称	対象者	内容	日数	回数	備考	
職業リハビリテーション実践セミナー	福祉、医療・保健、教育機関の職員等で、障害者の就業支援に携わっている者（これから携わろうとしている者を含む）	知的障害コース (18年度は発達障害コース)	(1) 職リハの基本概念、障害者雇用対策の体系と就業支援者の役割、関係機関との連携の方策 (2) 障害別の障害特性・職業的課題と就業支援に係るニーズ、支援技法等(コース別に実施) (3) 企業における障害者雇用の実際と就業支援に係るニーズ	4日	(2)	○土日を含めて4日間で開催 ○基礎的講座は選択制、平日(木金)実施
		精神障害コース		4日	(2)	
		高次脳機能障害コース		4日	(2)	
		3コース合計			2	
障害者就業・生活支援センター、障害者雇用支援センター新任担当者研修 障害者就業・生活支援センター等 就業支援スタッフリーダー研修 障害者就業・生活支援センター、障害者雇用支援センター新任施設長研修	新たに障害者就業・生活支援センター、障害者雇用支援センターにおいて就業支援担当者等になった者	(1) 障害者雇用対策の体系と支援センターの役割、関係機関との連携の方策 (2) 知的・発達・精神・身体・高次脳機能障害に係る障害別の障害特性・職業的課題、就業支援に係るニーズ、支援技法等 (3) 企業における障害者の雇用管理の実際と就業支援に係るニーズ、事業主支援の基礎	4日	2	○前期・実践期・後期と3期に分け、集合研修と実務が運動した構成	
	支援センターの指導員等であって、新任担当者研修を修了後4年程度の実務経験があり、対外的・対内的に中堅職員としての業務を遂行することを期待されている者	(1) リーダーとしての役割 (2) 新たな支援技法等 (3) 企業経営や障害者の雇用管理の実際、就業支援に係るニーズ、事業主支援に係る支援技法	前期 3日 実践期 10週間 後期 3日	1		
	新たに障害者就業・生活支援センター、障害者雇用支援センターにおいて施設長になった者	(1) 障害者雇用対策の体系と支援センターの役割、関係機関との連携の方策、支援センターの業務運営と管理者の役割 (2) 企業における障害者の雇用管理の実際と就業支援に係るニーズ、事業主支援の基礎	2日	2		
発達障害者支援センター就労支援担当者等研修	発達障害者支援センターや発達障害者の支援をしている機関で発達障害者の就業支援を担当している者(これから担当することとなる者を含む)	(1) 発達障害者の雇用対策の体系と就業支援者の役割、関係機関との連携の方策 (2) 発達障害者の障害特性・職業的課題、就業支援に係るニーズ、支援技法等 (3) 企業における発達障害者の雇用管理の実際と就業支援に係るニーズ、事業主支援の基礎	4日	2		
ジョブコーチ養成研修	新たに職場適応援助者(ジョブコーチ)としての職務を行うこととなった者	第1号ジョブコーチ	(1) 職リハの基本概念、障害者雇用対策の体系とジョブコーチの役割、関係機関との連携の方策 (2) 知的・発達・精神・身体・高次脳機能障害に係る障害別の障害特性・職業的課題、就業支援に係るニーズ、ジョブコーチの支援技法等 (3) 企業における障害者の雇用管理の実際と就業支援に係るニーズ、事業主支援の基礎(第1号)	9日	4	○総合センターで行う本部研修と地域センターで行う地域研修により構成
		第2号ジョブコーチ		9日	3	○総合センターで行う本部研修と地域センターで行う地域研修により構成 ○地域研修は原則事業所で実施
		合計			7	
地域職業リハビリテーション推進フォーラム	地域の職業リハビリテーションネットワークを構成する福祉、医療・保健機関等の機関、その他の関係機関、企業等の担当者	職リハネットワークの整備のため、職リハに関する共通認識が形成されるよう、就労移行支援事業者とのネットワークの形成、精神障害者の雇用支援ネットワークの整備等の地域のニーズに応じたテーマを設定し、講演、シンポジウム、意見交換等を実施。	各地域センターが設定	56		
地域就業支援基礎講座	福祉、医療・保健等の機関の職員	職リハネットワークの整備のため、職リハに関する基礎知識が付与されるよう、職リハの概要、障害者雇用に関する制度、精神障害者の就業支援の実際等の地域のニーズに応じたテーマを設定し、講義、事例検討等を実施。	各地域センターが設定	89		

障害者の就労支援を担う人材育成のための研修－所属機関別状況(平成19年度)－

1. 職業リハビリテーション実践セミナー

(1)第1回:平成19年8月2日(木)～8月5日(日)

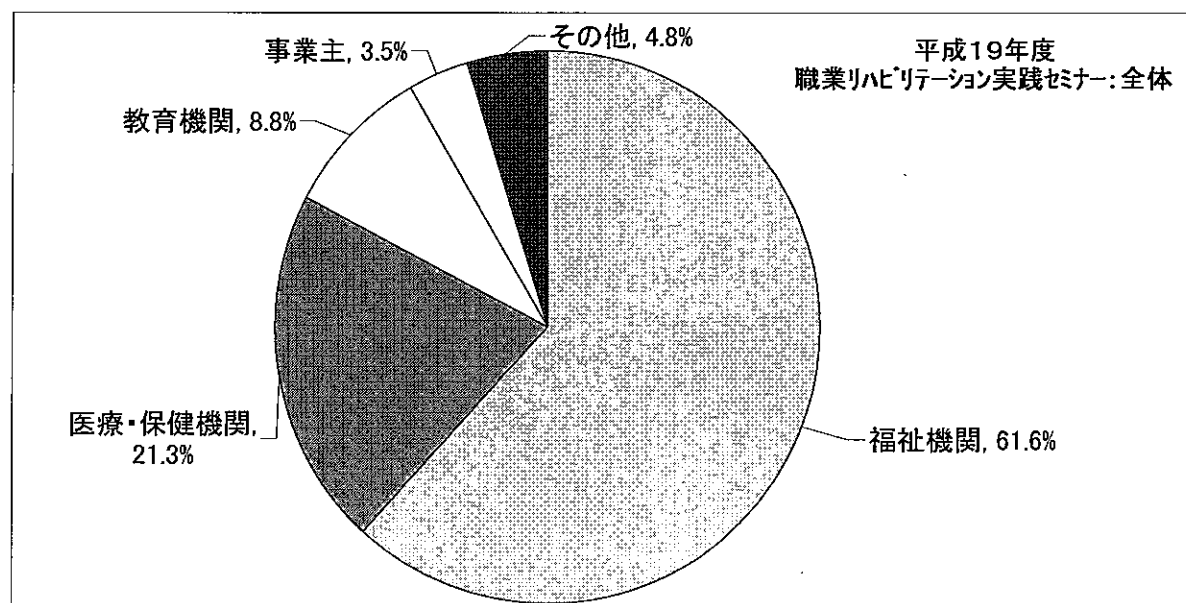
	知的障害コース		精神障害コース		高次脳機能障害コース		全体	
	修了者(名)	構成比(%)	修了者(名)	構成比(%)	修了者(名)	構成比(%)	修了者(名)	構成比(%)
福祉機関	80	74.1%	64	71.1%	19	37.3%	163	65.5%
医療・保健機関	2	1.9%	13	14.4%	23	45.1%	38	15.3%
教育機関	20	18.5%	3	3.3%	2	3.9%	25	10.0%
事業主	3	2.8%	5	5.6%	4	7.8%	12	4.8%
その他	3	2.8%	5	5.6%	3	5.9%	11	4.4%
合計	108	100.0%	90	100.0%	51	100.0%	249	100.0%

(2)第2回:平成20年1月31日(木)～2月3日(日)

	知的障害コース		精神障害コース		高次脳機能障害コース		全体	
	修了者(名)	構成比(%)	修了者(名)	構成比(%)	修了者(名)	構成比(%)	修了者(名)	構成比(%)
福祉機関	88	75.9%	69	61.6%	15	22.4%	172	58.3%
医療・保健機関	6	5.2%	25	22.3%	47	70.1%	78	26.4%
教育機関	13	11.2%	8	7.1%	2	3.0%	23	7.8%
事業主	3	2.6%	3	2.7%	1	1.5%	7	2.4%
その他	6	5.2%	7	6.3%	2	3.0%	15	5.1%
合計	116	100.0%	112	100.0%	67	100.0%	295	100.0%

(3)平成19年度 合計

	知的障害コース		精神障害コース		高次脳機能障害コース		全体	
	修了者(名)	構成比(%)	修了者(名)	構成比(%)	修了者(名)	構成比(%)	修了者(名)	構成比(%)
福祉機関	168	75.0%	133	65.8%	34	28.8%	335	61.6%
医療・保健機関	8	3.6%	38	18.8%	70	59.3%	116	21.3%
教育機関	33	14.7%	11	5.4%	4	3.4%	48	8.8%
事業主	6	2.7%	8	4.0%	5	4.2%	19	3.5%
その他	9	4.0%	12	5.9%	5	4.2%	26	4.8%
合計	224	100.0%	202	100.0%	118	100.0%	544	100.0%

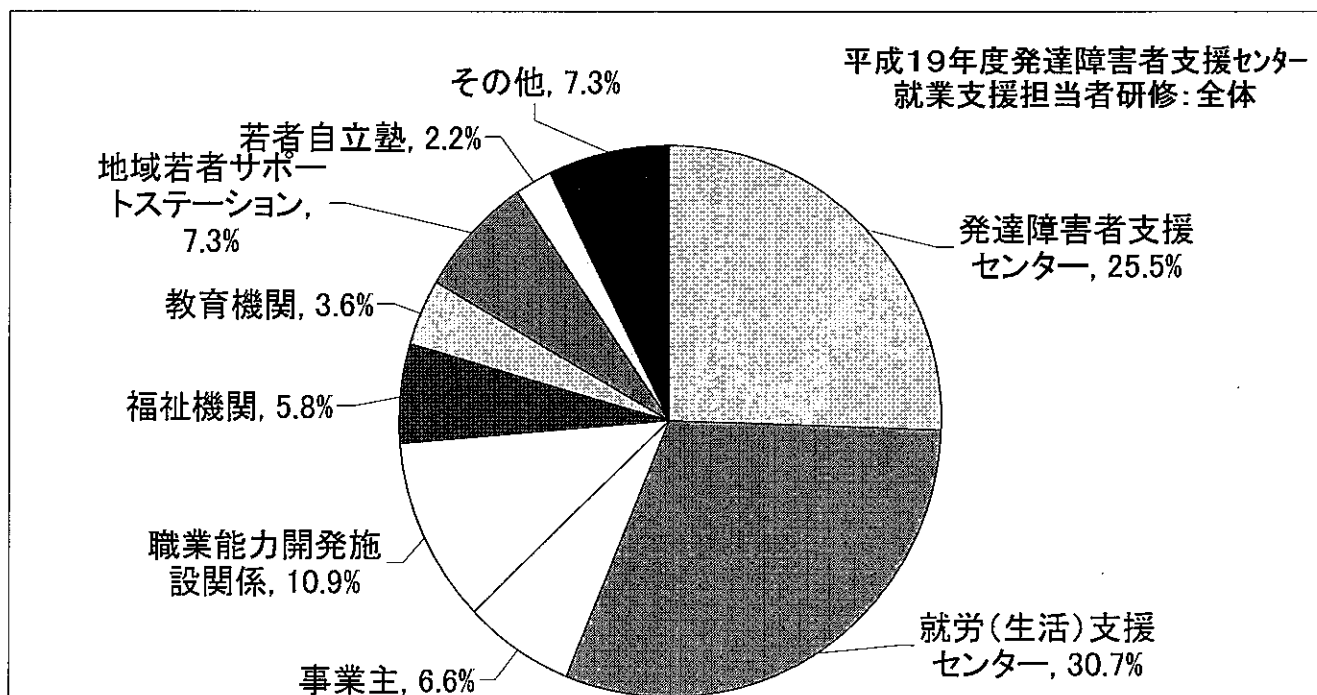
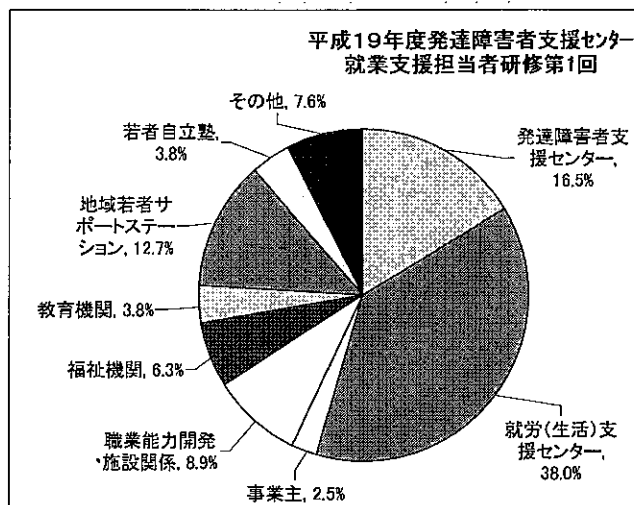
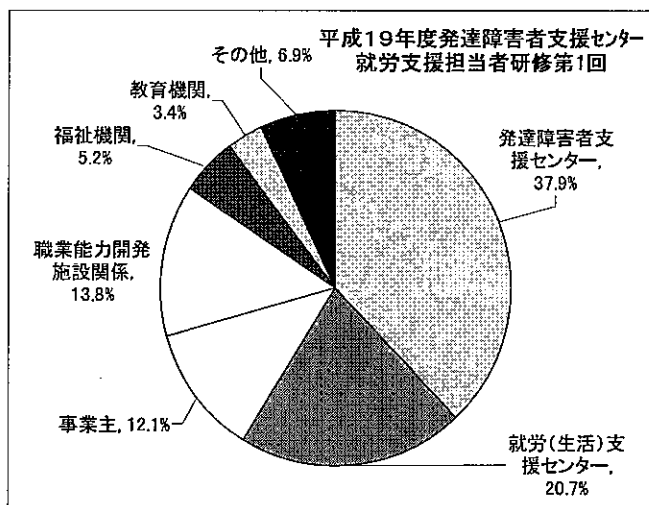


2. 発達障害者支援センター就労支援担当者等研修

第1回:平成19年9月10日(月)～13日(木) ※13日は選択講座

第2回:平成20年2月18日(月)～21日(木) ※21日は選択講座

	第1回		第2回		全体	
	修了者	構成比(%)	修了者	構成比(%)	修了者	構成比(%)
発達障害者支援センター	22	37.9%	13	16.5%	35	25.5%
就労(生活)支援センター	12	20.7%	30	38.0%	42	30.7%
事業主	7	12.1%	2	2.5%	9	6.6%
職業能力開発施設関係	8	13.8%	7	8.9%	15	10.9%
福祉機関	3	5.2%	5	6.3%	8	5.8%
教育機関	2	3.4%	3	3.8%	5	3.6%
地域若者サポートステーション	0	0.0%	10	12.7%	10	7.3%
若者自立塾	0	0.0%	3	3.8%	3	2.2%
その他	4	6.9%	6	7.6%	10	7.3%
合計	58	100.0%	79	100.0%	137	100.0%



平成20年度 人材育成の概要

名称		対象者	内容	日数	回数	備考
職業リハビリテーション実践セミナー		知的障害コース (18年度は発達障害コース)	(1) 職リハの基本概念、障害者雇用対策の体系と就業支援者の役割、関係機関との連携の方策 (2) 障害別の障害特性・職業的課題と就業支援に係るニーズ、支援技法等(コース別に実施) (3) 企業における障害者雇用の実際と就業支援に係るニーズ	4日	(2)	○土日を含めて4日間で開催 ○基礎的講座は選択制、平日(木金)実施
		精神障害コース		4日	(2)	
		高次脳機能障害コース		4日	(2)	
		3コース合計			2	
障害者就業・生活支援センター職員研修	障害者就業・生活支援センター就業支援担当者研修	新たに障害者就業・生活支援センターにおいて就業支援担当者等になった者	(1) 障害者雇用対策の体系と障害者就業・生活支援センターの役割、関係機関との連携の方策 (2) 知的・発達・精神・身体・高次脳機能障害に係る障害別の障害特性・職業的課題、就業支援に係るニーズ、支援技法等 (3) 企業における障害者の雇用管理の実際と就業支援に係るニーズ、事業主支援の基礎	4日	4	○前期・実践期・後期と3期に分け、集合研修と実務が連動した構成
	就業支援スキルアップ研修	次の何れにも該当する者 ①障害者就業・生活支援センターにおいて3年程度の就業支援実務経験を有し、今後も継続勤務の予定があること ②障害者就業・生活支援センターにおいて中堅職員として支援技法等のスキルアップを図ることが望まれるとその支援センターの長が認めた者 ③同一年度内に全ての課程を履修できる見込みのある者	(1) 中堅職員としての役割 (2) 新たな支援技法等 (3) 企業経営や障害者の雇用管理の実際、就業支援に係るニーズ、事業主支援に係る支援技法(職場(作業)改善と職務再設計)	前期 3日 実践期 10週間 後期 3日	1	
	障害者就業・生活支援センター主任就業支援担当者研修	新たに障害者就業・生活支援センターにおいて主任就業支援担当者になった者	(1) 障害者雇用対策の体系と障害者就業・生活支援センターの役割、関係機関との連携の方策、支援センターのマネジメント業務と主任の役割 (2) 企業における障害者の雇用管理の実際と就業支援に係るニーズ、事業主支援の基礎	4日	4	
発達障害者就業支援セミナー		発達障害者支援センター及び発達障害者支援を実施している機関において就業支援を担当する者(これから担当することとなる者を含む)	(1) 発達障害者の雇用対策の体系と就業支援者の役割、関係機関との連携の方策 (2) 発達障害者の障害特性・職業的課題、就業支援に係るニーズ、支援技法等 (3) 企業における発達障害者の雇用管理の実際と就業支援に係るニーズ、事業主支援の基礎	4日	2	
ジョブコーチ養成研修		第1号ジョブコーチ	(1) 職リハの基本概念、障害者雇用対策の体系とジョブコーチの役割、関係機関との連携の方策 (2) 知的・発達・精神・身体・高次脳機能障害に係る障害別の障害特性・職業的課題、就業支援に係るニーズ、ジョブコーチの支援技法等 (3) 企業における障害者の雇用管理の実際と就業支援に係るニーズ、事業主支援の基礎(第1号)	9日	4	○総合センターで行う本部研修と地域センターで行う地域研修により構成 ○総合センターで行う本部研修と地域センターで行う地域研修により構成 ○地域研修は原則事業所で実施
		第2号ジョブコーチ		9日	3	
		合計			7	
地域職業リハビリテーション推進フォーラム		地域の職業リハビリテーションネットワークを構成する福祉、医療・保健機関等の機関、その他の関係機関、企業等の担当者	職リハネットワークの整備のため、職リハに関する共通認識が形成されるよう、就労移行支援事業者とのネットワークの形成、精神障害者の雇用支援ネットワークの整備等の地域のニーズに応じたテーマを設定し、講演、シンポジウム、意見交換等を実施。	各地域センターが設定	57	
地域就業支援基礎講座		福祉、医療・保健等の機関の職員	職リハネットワークの整備のため、職リハに関する基礎知識が付与されるよう、職リハの概要、障害者雇用に関する制度、精神障害者の就業支援の実際等の地域のニーズに応じたテーマを設定し、講義、事例検討等を実施。	各地域センターが設定	83	

障害者の就労支援を担う人材育成の
ための研修カリキュラム

(平成20年度)

職業リハビリテーション実践セミナー

カリキュラム内容

区分	形態	講座名	内容	時間 (分)
全 コ ー ス 共 通 プ ロ グ ラ ム	講義	障害者雇用の現状と障害者雇用施策の概要	障害者雇用促進法の概要、雇用情勢等を踏まえた障害者雇用の現状・動向と対策等について理解する。	75
	講義	職業リハビリテーションの概要	職業リハビリテーションの基本概念を踏まえ、様々な就労支援のあり方、体系、内容を理解する。	75
	講義	ハローワークにおける障害者雇用支援	ハローワークにおける障害者雇用に関する取り組み（雇用率達成指導、職業紹介、特定求職者雇用開発助成金等）について理解する。	75
	講義	就業支援におけるケースマネジメントとネットワーク	就業支援におけるネットワークの構築と支援者の役割を踏まえ、効果的なケースマネジメントのあり方を理解する。	75
	講義 演習	企業における障害者雇用Ⅰ ～企業が就業支援者に求めること～	企業を取り巻く環境変化を踏まえ、企業が抱える障害者雇用の課題や企業の支援ニーズ等について理解を深め、企業が就業支援者に求めることについて学ぶ。併せてグループワークを通じて就業支援者としての企業へのアプローチ方法を理解する。	140
	講義	企業における障害者雇用Ⅱ ～障害者の雇用管理を理解する～	企業活動を踏まえ、企業が障害者雇用を進めるための雇用管理の実際を理解する。	90
	シンポジウム	企業における障害者雇用Ⅲ ～障害者雇用の実際～	企業の代表、人事担当者等から各企業における障害者雇用の実際について話題提供をいただき、支援者に対する企業のニーズを理解する。	150
話題提供	職業生活に必要なサポート ～障害をもつ当事者が語る！支援者へのメッセージ～	当事者・当事者団体等からの話題提供を踏まえ、支援者及び支援機関に対するニーズを理解する。	60	
コ ー ス 別 （ 知 的 障 害 コ ー ス ・ 精 神 障 害 コ ー ス ・ 高 次 脳 機 能 障 害 コ ー ス ）	講義	職業的課題と対応方法 ～障害特性の理解と支援のあり方～	就業支援に向けた障害特性及び職業的課題、対応方法について理解する。	60
	講義・意見交換	就業支援における連携Ⅰ ～雇用に向けた各関係機関とのチームアプローチ～	就業支援に向けて、福祉、医療・保健、教育、ハローワーク等の関係機関の連携の役割分担、方法について理解する。	120
	講義・意見交換	就業支援における連携Ⅱ ～雇用継続を支えるためのチームアプローチ～	雇用継続を維持するための、関係機関の役割や支援方法について理解する。	120
	ケーススタディ ※A、Bのいずれかを選択	(Aグループ) 公開ケーススタディ	就業支援機関におけるモデル事例の発表をもとに、支援を行う上でのポイントや支援ノウハウについて理解する。	150
		(Bグループ) グループケーススタディ	受講者からの事例報告をもとに、事例検討及び意見交換を行い、就業支援のノウハウを共有化する。	
意見交換	バズ・セッション	小グループにわかれ、受講者同士で地域のネットワークの活用方法、明日から職場で取り組める就業支援の推進策等について意見交換を行う。	120	
合計（選択カリキュラム含む）				1,310

選択カリキュラム

必修カリキュラム

障害者就業・生活支援センター 就業支援担当者研修カリキュラム

カリキュラム内容

区分	形態	講座名	内 容	時間(分)
必修カリキュラム	講義	職場における雇用管理の実際	事業所における具体的な障害者雇用の取り組み及び支援者に求める事項に関する理解	90
	講義	障害特性と職業的課題Ⅰ(知的障害・発達障害)	知的障害者及び発達障害者の障害特性と職業生活上の課題及び対処方法、雇用管理の方法と課題に関する理解	100
	講義	障害特性と職業的課題Ⅱ(精神障害)	精神障害者の障害特性と職業生活上の課題及び対処方法、雇用管理の方法と課題に関する理解	90
	講義	障害特性と職業的課題Ⅲ(身体障害・高次脳機能障害)	身体障害者及び高次脳機能障害者の障害特性と職業生活上の課題及び対処方法、雇用管理の方法と課題に関する理解	100
	講義	新たな就労支援技法の開発 ～発達障害者のワークシステム サポートプログラム～	職業センター部門における取り組みを通じた職業リハビリテーションにおける新たな支援技法に関する理解	55
	講義	障害者雇用対策の概要と支援センターの役割	障害者雇用対策の概要と障害者の雇用施策の現状、支援センターの施策的な位置付け及び業務運営についての理解	100
	意見交換	意見交換	就業・生活支援センターの担当者からの話題提供を受け、職業リハビリテーションにおける就業支援担当者の役割に関する理解	135
	講義	ケースマネジメントの取り組み	障害者の就業支援におけるケースマネジメントの概念及び方法論に関する理解	75
	講義	事業主支援の基礎理解	事業主支援のあり方や心構え、効果的支援方法、対応方法の理解	75
	意見交換	ケーススタディ	障害者就業・生活支援センターからの事例報告に基づき、グループでのケーススタディ	170
選択カリキュラム	講義 演習	課題分析の概要と実践	課題分析の概要、実施方法及び活用等の理解	160
合 計(選択カリキュラム含む)				1,150



選択カリキュラム

**障害者就業・生活支援センター
就業支援スキルアップ研修**

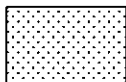
カリキュラム内容

	形態	講 座 名	内 容	時間 (分)
前期 (集合 研修)	講義 演習	職業相談の技法	職業準備訓練場面等での効果的な相談技法及び課題の把握の仕方、工夫等の習得	150
	講義 演習	アセスメントの視点と技法Ⅰ	職業評価等の視点や技法等、職リハサービスの提供の方法の学習	230
	講義 演習	専門職としての自己分析・自己啓発	専門職としての自己分析の方法を学び、能力を開発、向上させるための具体的な自己研鑽の方法について習得	120
	講義	職場(作業)改善と職務再設計	事業主の業務内容を把握した上で、職場(作業)改善や職務の再設計を提案できるような技法の習得	120
	討議	意見交換(1)	前期研修の振り返りを通して、業務への活用方法についての討議	120
実践期		実践期レポート作成(3種)	テーマに係るレポートを作成(ケーススタディ、評価関係実践結果(2種))	
後期 (集合 研修)	講義 演習	アセスメントの視点と技法Ⅱ (実践期の課題の発表を含む)	前期研修を基に実施した実践期における実践結果を検討することにより、アセスメントの知識及び技術の向上	230
	事例 検討	ケーススタディ	受講者から提出してもらった支援事例を検討することにより、障害者の就業支援についての理解を促進	410
	討議	意見交換(2)	支援センターの中堅職員としての役割と効果的な支援を行うための方法、望ましい業務遂行等についての討議	120
合 計				1,500

障害者就業・生活支援センター 主任就業支援担当者研修カリキュラム

カリキュラム内容

	形態	講座名	内 容	時間 (分)
選択カリキュラム (基礎講座)	講義	職場における雇用管理の実際	事業所における具体的な障害者雇用の取り組み及び支援者に求める事項に関する理解	90
	講義	障害特性と職業的課題Ⅰ(知的障害・発達障害)	知的障害者及び発達障害者の障害特性と職業生活上の課題及び対処方法、雇用管理の方法と課題に関する理解	100
	講義	障害特性と職業的課題Ⅱ(精神障害)	精神障害者の障害特性と職業生活上の課題及び対処方法、雇用管理の方法と課題に関する理解	90
	講義	障害特性と職業的課題Ⅲ(身体障害・高次脳機能障害)	身体障害者及び高次脳機能障害者の障害特性と職業生活上の課題及び対処方法、雇用管理の方法と課題に関する理解	100
	講義	新たな就労支援技法の開発 ～発達障害者のワークシステム サポートプログラム～	職業センター部門における取り組みを通じた職業リハビリテーションにおける新たな支援技法に関する理解	55
必修カリキュラム	講義	障害者雇用対策の概要と支援センターの役割	障害者雇用対策の概要と障害者の雇用施策の現状、支援センターの施策的な位置付け及び業務運営についての理解	100
	意見交換	意見交換	就業・生活支援センター長からの話題提供を受け、職業リハビリテーションにおける主任就業支援担当者の役割に関する理解	135
	講義	就業支援におけるマネジメント	障害者の就業支援における組織のマネジメントの概念及び方法論に関する理解	75
	講義	事業主へのコンサルテーション	障害者雇用に係る事業主へのコンサルテーションの概念と方法論の理解	75
	意見交換	ケーススタディ	障害者就業・生活支援センターからの事例報告に基づき、グループでのケーススタディ	170
選択カリキュラム	講義 演習	課題分析の概要と実践	課題分析の概要、実施方法及び活用等の理解	160
合計(選択カリキュラム含む)				1,150



選択カリキュラム(就業支援担当者研修と合同)

発達障害者就業支援セミナー

カリキュラム内容

区分	形態	講座名	内容	時間 (分)
必修カリキュラム	講義	発達障害者支援施策の動向	発達障害者の支援施策(雇用対策を含む)の現状及び動向について理解する。	70
	講義 意見交換	障害特性と職業的課題 (発達障害)	発達障害者の障害特性と職業的課題、対応方法について理解する。	150
	講義	当事者のニーズ	発達障害者の当事者や家族の就業支援者に対するニーズを理解する。	90
	講義	職場における雇用管理 の実際	発達障害者を雇用する事業主の雇用管理の取り組みの実際、支援者へのニーズを理解する。	75
	講義 意見交換	事業主支援の基礎理解	発達障害者の雇用や雇用継続に向けての事業主支援のあり方や心構え、効果的支援方法等について理解する。	140
	講義 意見交換 演習	発達障害者の就業支援 の実際	障害者職業総合センター職業センターで取り組んでいる発達障害者へのワークシステム・サポートプログラムとその理論的背景を把握するとともに、実際の支援事例の紹介によって、支援技法の活用する方法を理解する。	125
	意見交換	バズセッション	受講者がワークシステム・サポートプログラム等の支援技法を実践の場で活用するためのヒントを得るためにグループディスカッションを行い、さらなる技法の習熟を目指す。	100
	事例検討 意見交換	ケーススタディⅠ	発達障害者の就業支援の技法に関する事例について、支援のポイントをグループで意見交換を行うことにより、支援技法についての実践的理解を深める。	120
	事例検討 意見交換	ケーススタディⅡ (Aグループ)	ネットワークを活用した発達障害者の就業支援に関する事例を受講者から提出してもらい、グループディスカッションを行うことにより、支援の実践についての理解を深める。	120
		ケーススタディⅡ (Bグループ)	ネットワークを活用した発達障害者の就業支援に関する事例を受講者から提出してもらい、事例検討及びグループディスカッションを行うことにより、発達障害者支援センター就労支援担当者としての支援の実践についての理解を深める。	
選択カリキュラム	講義 演習	課題分析の概要と実践	支援方法を具体化する際に必要となる分析方法である課題分析の概要、実施方法及び活用例等を理解する。	180
合 計(選択含む)				1,150

選択カリキュラム

配置型職場適応援助者養成研修及び 第1号職場適応援助者養成研修

カリキュラム内容

区分	形態	実施場所	講 座 名	内 容	時間 (分)
本 部 研 修	講義	総合センター	職業リハビリテーション概論	・障害者雇用対策の概要に関する理解 ・職業リハビリテーションの基本概念と体系の理解及び現状と動向についての情報提供	100
	講義	総合センター	職場適応援助者の職務Ⅱ	職場適応援助者の職務及び職場適応援助者による援助の事業の理解、地域センター業務と職場適応援助者の職務との関連の理解、職業リハビリテーション計画及び職場適応援助者による支援計画の活用理解	120
	講義	総合センター	ケースマネジメントの取り組み	障害者のケースマネジメントの概念及び方法論についての理解	60
	講義	総合センター	障害特性と職業的課題Ⅰ(知的障害・発達障害)	知的障害及び発達障害の障害特性と職業的課題、対応方法	120
	講義	総合センター	障害特性と職業的課題Ⅱ(精神障害)	精神障害の障害特性と職業的課題、対応方法	90
	講義	総合センター	障害特性と職業的課題Ⅲ(身体障害者・高次脳機能障害)	身体障害及び高次脳機能障害の障害特性と職業的課題、対応方法	120
	講義	総合センター	課題分析の理論	課題分析の概念、内容、実施方法及び活用等の理解	150
	講義・演習	総合センター	作業指導の実際	課題分析技法を活用した作業指導及び作業環境へのアプローチの方法の理解	240
	講義	総合センター	事業主支援の基礎理解	地域センターにおける事業主支援のあり方、職場適応援助者による事業主支援の心構え、効果的支援方法、対応方法の理解	90
	講義	総合センター	職場における雇用管理の実際	企業側から見た障害者雇用管理の現状と就労支援における企業ニーズの理解	60
	ケーススタディ	総合センター	職場適応援助者による援助の実際	具体的支援事例の検討を通じての、職場適応援助者の職務及び支援技法の具体的理解	240
	講義	総合センター	家族支援と生活支援	・職場適応援助者による家族への支援の考え方と支援方法の理解 ・職業生活を支える生活支援の考え方と支援方法の理解	100
	講義	総合センター	支援記録の作成Ⅰ	支援記録作成に関する基礎的事項の理解	50
地 域 研 修	講義	地域センター	職場適応援助者の職務Ⅰ	職場適応援助者の職務について、その意義と実際について理解	90
	講義・見学等	地域センター	事業所での支援の心構えと支援技術Ⅰ	事業所における支援の際の心構え、留意事項及び具体的支援方法についての基礎理解	150
	講義・演習	地域センター	支援計画について	職場適応援助者による支援計画及びフォローアップに関する支援の計画の意味、内容、活用方法等についての理解	120
	演習	地域センター	事業所での支援の心構えと支援技術Ⅱ	事業所における支援の際の心構え、留意事項及び支援方法についての具体的理解	420
	演習	地域センター	支援記録の作成Ⅱ	支援記録作成の具体的な理解	150
	演習	地域センター	ケース会議	ケース会議の目的・位置付け、観察・聴取事項の報告、報告に基づく支援方策考察、検討内容についての理解	120
	ケーススタディ	地域センター	ケーススタディ	具体的支援事例の検討を通じての、具体的支援方法・技術及び支援上の課題等の的確な整理方法の理解	120
合 計 時 間 (分)					2,710
うち、総合センター実施分					1,540
うち、地域センター実施分					1,170

第2号職場適応援助者養成研修

カリキュラム内容

区分	形態	実施場所	講座名	内容	時間(分)
本 部 研 修	講義	総合センター	職業リハビリテーション概論	・障害者雇用対策の概要に関する理解 ・職業リハビリテーションの基本概念と体系の理解及び現状と動向についての情報提供	100
	講義	総合センター	第2号職場適応援助者の職務	第2号職場適応援助者の職務の理解	120
	講義	総合センター	ケースマネジメントの取り組み	障害者のケースマネジメントの概念及び方法論についての理解	60
	講義	総合センター	障害特性と職業的課題Ⅰ (知的障害、発達障害)	知的障害及び発達障害に関する障害特性と職業的課題、対応方法の理解	120
	講義	総合センター	障害特性と職業的課題Ⅱ (精神障害)	精神障害に関する障害特性と職業的課題、対応方法の理解	90
	講義	総合センター	障害特性と職業的課題Ⅲ (身体障害・高次脳機能障害)	身体障害及び高次脳機能障害に関する障害特性と職業的課題、対応方法の理解	120
	講義	総合センター	課題分析の理論	課題分析の概念、内容、実施方法及び活用等の理解	150
	講義・演習	総合センター	作業指導の実際	課題分析技法を活用した作業指導及び職場環境へのアプローチの方法の理解	240
	講義	総合センター	家族支援と生活支援	・職場適応援助者による家族への支援の考え方と支援方法の理解 ・職業生活支援の考え方と支援方法の理解	100
	講義	総合センター	支援記録の作成Ⅰ	支援記録作成に関する基礎的事項の理解	50
	ケーススタディ	事業所	雇用管理の実際と第2号職場適応援助者による援助	障害者を雇用する事業所の雇用管理の方法及び第2号職場適応援助者の役割の理解	240
	講義	総合センター	職業生活継続のための企業の役割	企業が行う職業生活支援のあり方の理解	60
	講義	総合センター	職業リハビリテーション機関の活用方法	職業リハビリテーション機関の機能を理解し、職場適応援助者による援助の実施のためのネットワークの構築方法の理解	60
地 域 研 修	講義・演習	地域センター	支援計画の作成Ⅰ	職場適応援助者による支援計画作成のためのアセスメント、プランニングの方法の理解	180
	演習	地域センター	第2号職場適応援助者による作業指導の実際	課題分析の手法を活用した事業所内での作業指導等についての理解	420
	演習	地域センター	支援記録の作成Ⅱ	支援記録作成の具体的な理解	120
	講義	地域センター	地域の社会資源の活用	ネットワークの利用方法、福祉制度・機関の役割の理解	60
	講義・演習	地域センター	事業所内調整の方法	事業所内での各種調整内容、方法の理解	90
	講義・演習	地域センター	支援計画の作成Ⅱ	ケース会議等を活用し職場適応援助者による支援計画について関係者と合意形成を図る方法の理解	90
	ケーススタディ	地域センター	ケーススタディ	具体的支援事例の検討を通じての、具体的支援方法・技術及び支援上の課題等の的確な整理方法の理解	180
合 計 時 間					2,650
うち、総合センター実施分					1,510
うち、地域センター実施分					1,140